

出資法人等経営状況報告書

1 作成年月日及び担当部署

作成年月日	令和4年8月23日	担当部署	産業観光交流部 施設経営管理室
-------	-----------	------	-----------------

※以下は令和4年3月31日現在の内容です。

2 法人等の概要

法人名	Jーホールディングス 株式会社		
代表者	代表取締役 田知花 康彦		
	<input checked="" type="checkbox"/> 常勤	<input type="checkbox"/> 非常勤	<input checked="" type="checkbox"/> プロパー <input type="checkbox"/> 市兼務 <input type="checkbox"/> その他
所在地	新潟県上越市柿崎区上下浜 262		
設立年月日	平成25年9月3日		
資本金	100,000 千円	市出資割合	80.2%
設立目的	<p>次の事業を営む会社の株式又は持分を所有することにより、当該会社の事業活動を支配又は管理すること及びこれに付帯又は関連する事業を営むことを目的とする。</p> <p>1 温浴施設、宿泊施設、スキー場施設その他附帯施設の経営及び管理運営に関する業務 2 物品、特産品等の製造及び販売並びに委託販売に関する業務 3 各種イベント、事業及び物品の企画立案、広告宣伝並びに調査研究に関する業務 4 不動産の売買、賃貸借管理及びその仲介に関する業務 5 保険代理業 6 旅行業・旅行代理業 7 上越市からの受託事業に関する業務 8 その他附帯関連する一切の業務</p>		
主な事業	事業会社の経営管理及び経営指導		

3 役員数

(単位：人)

	常勤	非常勤	計	内訳		
				プロパー	市兼務	その他
取締役	1	4	5	5	0	0
監査役	0	1	1	1	0	0
計	1	5	6	6	0	0

4 職員数

(単位：人)

	計	内訳	
		プロパー	市兼務
正社員	0	0	0
その他	1	1	0
計	1	1	0

5 事業実績（概要）

【第9期の経営状況】

- ・ 第9期の売上高は、前期と比較して955千円減（13.7%の減）の5,997千円となりました。事業会社の減少に伴い、事業会社からの負担金収入が減少したことが主な要因です。
- ・ 販売費及び一般管理費では、職員の退職に伴う人件費の減少などにより、前期と比較して2,581千円減の9,182千円となりました。
- ・ また、事業会社の解散に伴う特別損失として16,259千円を計上したことから、最終的な当期純利益は△19,083千円となり、この結果、第9期末の累積欠損金は△158,479千円、純資産額は248,708千円となりました。

【第9期の主な取組（事業会社を含む）】

(1) Jーホールディングス株式会社の取組

- ・ 正規職員の退職に伴い、パート社員1名体制に変更し、人件費削減に繋がりました。
- ・ 事業会社の総務部門を統合するなど、経営の合理化を図りました。
- ・ 原材料仕入れの実態調査を行い、取引先の調整・仕入価格の見直し・共同購入による原価縮減などの取組に着手しました。

(2) 事業会社の取組

- ・ 雇用調整助成金や上越市経営者支援金など、国・県・市の助成金や協力金を最大限活用し、損失額の縮減に繋がりました。また、宿泊施設においては、新潟県宿泊事業者感染防止対策支援事業補助金を活用し、感染防止対策用の備品等を整備しました。
- ・ お客様のご要望に配慮した上で、繁閑差に応じた営業日や営業時間の見直しや、提供サービスの見直しを行い、経営の効率化を図りました。

【直近3期の部門別実績】

（単位：千円）

部門名	区分	第7期 (令和元年度)	第8期 (令和2年度)	第9期 (令和3年度)
本社	売上高	8,632	6,952	5,997
	経常利益	△5,170	△400	△2,534
7つ屋	売上高	21,133	—	—
	経常利益	△58	—	—
合計(※)	売上高	29,765	6,952	5,997
	経常利益	△5,229	△400	△2,534

※7つ屋部門（飲食）は令和元年8月に事業譲渡

【その他】

- ・ 三和振興株式会社は、令和3年5月末で解散し、同年8月25日に清算終了となりました。
- ・ うみてらす名立の指定管理者の指定に伴い、株式会社ゆめ企画名立の民営化に取り組みました。（令和4年6月末に全株式を株式会社BJに譲渡）
- ・ このため、事業会社が4社となったことから、Jーホールディングスグループの整理に着手しました。

6 財務状況（税抜）

（単位：千円）

項 目		第7期	第8期	第9期
		自平成31年4月1日 至令和2年3月31日	自令和2年4月1日 至令和3年3月31日	自令和3年4月1日 至令和4年3月31日
損益計算書	売上高	29,765	6,952	5,997
	売上原価	8,423	0	0
	売上総利益	21,342	6,952	5,997
	販売費及び 一般管理費	28,302	11,763	9,182
	営業利益	△6,960	△4,811	△3,185
	営業外収益	1,749	4,411	652
	営業外費用	18	0	0
	経常利益	△5,229	△400	△2,534
	特別利益	484	2,200	0
	特別損失	0	65,054	16,259
	税引前当期純利益	△4,745	△63,254	△18,793
	法人税等	290	290	290
	当期純利益	△5,035	△63,544	△19,083
項 目		令和2年3月31日現在	令和3年3月31日現在	令和4年3月31日現在
貸借対照表	資 産	333,139	268,420	249,228
	負 債	1,803	629	520
	純資産	331,335	267,791	248,708
	資本金	100,000	100,000	100,000
	利益剰余金	△75,852	△139,396	△158,479
その他	307,187	307,187	307,187	

※ 金額については、千円未満を四捨五入して表示しており、端数処理の関係上、決算書及び計算結果と一致しない場合があります。

7 市からの財政支出等

(1) 委託額 (税込)

(単位：千円)

内訳		令和元年度	令和2年度	令和3年度	備考
①	直江津屋台会館業務委託料	658	0	0	受付・清掃業務
②					
③					
④					
⑤					
計		0	0	0	

(2) 財政援助額 (税込)

(単位：千円)

内訳		令和元年度	令和2年度	令和3年度	備考
①	補助金 (助成金)	0	0	0	
②	貸付金	0	0	0	
③	損失補償	0	0	0	
④	債務保証	0	0	0	
⑤	その他 ()	0	0	0	
計		0	0	0	

8 今後の経営計画等

(1) 次期事業計画

新型コロナウイルス感染症拡大 (以下、コロナ禍) の影響により事業会社の経営の先行きが不透明の中、収入 2,040 千円、営業損失 2,559 千円を見込み、次のとおり計画を策定しました。

(1) 活動計画

- ・ 事業会社への訪問活動や経営会議を実施し、業務改善の推進や人員削減を目指します。
- ・ コロナ禍の影響が大きい飲食業や宿泊業の生き残り策を議論し、具体的な方策を実施します。

(2) 収支計画

(単位：千円)

	金額
収入	2,040
一般管理費	4,599
営業損失	2,559

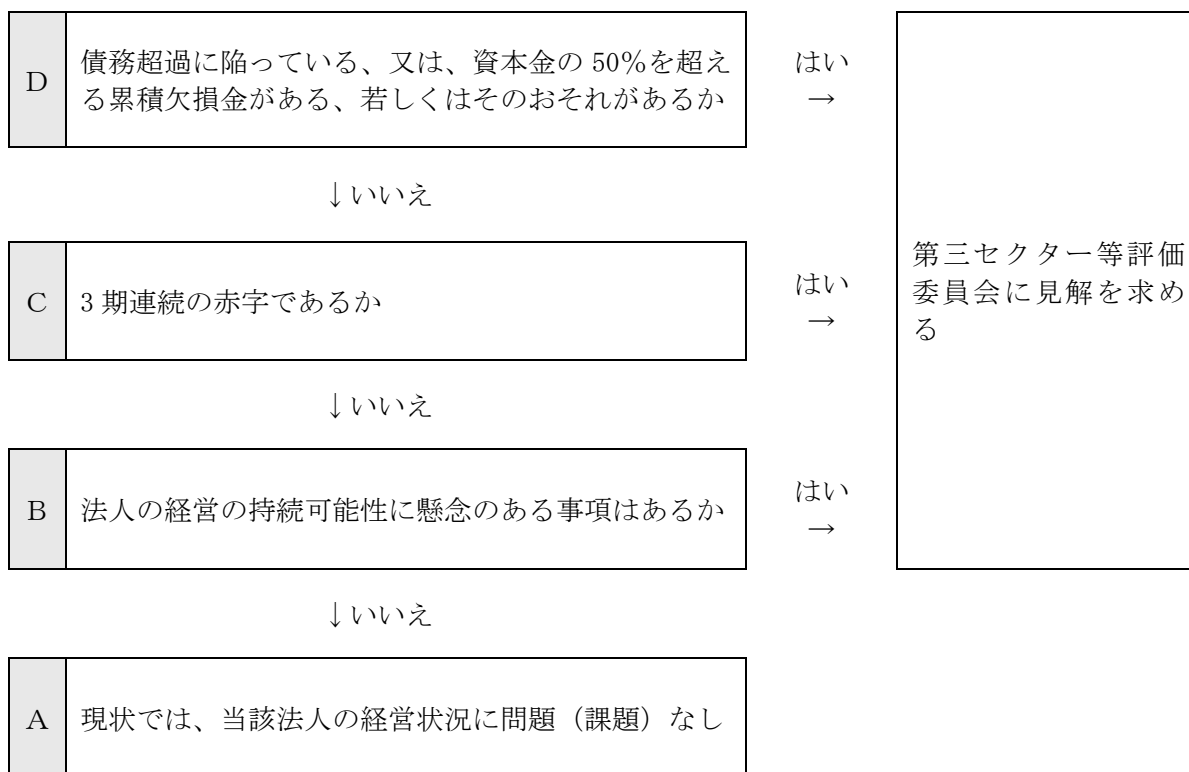
(2) 中長期経営計画

なし

9 令和4年度 経営状況の分析・評価

(1) 第三セクター等の経営状況の分析・評価のフローチャート

※「第三セクター等に対する関与方針」から抜粋



フローチャートによる評価基準		備考
A	経営状況に問題（課題）なし	引き続き経営努力を行う
B	法人の経営の持続可能性に懸念がある	経営健全化の可能性について、第三セクター等評価委員会に見解を求める
C	当期純利益が3期連続の単年度赤字である	
D	債務超過に陥っている、又は、資本金の50%を超える累積欠損金がある	

フローチャートによる評価	C
--------------	---

【特記事項】

9期連続で単年度赤字を計上したことからC評価となるが、同社グループの整理に向けた取組を進めていることから、次頁以降の分析・評価の対象としないこととした。

※各事業会社も同様の理由から分析・評価の対象外とした。

10 令和3年度 第三セクター等評価委員会の分析・評価に対する対応状況

令和3年度 第三セクター等評価委員会の分析・評価【概要】
① 親会社として各事業会社のコスト管理など、グループ会社のメリットを最大限に発揮していく必要がある。 ② 持株会社のメリット・デメリットを検証し、合理的な出口戦略を明確にすべきである。
第三セクターによる対応状況
① 経営の効率化や経費の削減のため、同社グループの整理に向けた検討を開始した。 ② 事業会社ごとに行っていた経理業務、労務関連業務を同社で一括して行うこととした。仕入についても、取引先の調整・価格の見直し、共同購入による原価縮減などの取組に着手した。
市担当部署による対応状況
・同社グループの整理について検討しており、経営の効率化や経費削減を見込んでいる。

J-ホールディングスグループ経営状況一覧

1 年度経営・財務状況

(1) 令和3年度末の経営状況

(単位：千円)

法人名	項目	令和元年度	令和2年度	令和3年度
柿崎総合開発株式会社	売上高	97,704	48,346	80,400
	営業利益	▲ 13,343	▲ 38,791	▲ 10,275
	当期損益	▲ 10,211	▲ 14,127	▲ 15
	資産	57,753	48,819	43,036
	負債	8,521	13,714	7,996
	純資産	49,232	35,105	35,040
株式会社 大潟地域活性化センター	売上高	115,873	68,881	84,134
	営業利益	4	▲ 15,023	▲ 5,756
	当期損益	3,404	▲ 181	▲ 177
	資産	17,876	13,887	13,825
	負債	10,696	6,888	7,003
	純資産	7,180	6,999	6,822
株式会社 ゆったりの郷	売上高	152,444	76,520	95,825
	営業利益	▲ 5,064	▲ 29,552	▲ 8,028
	当期損益	409	▲ 168	▲ 174
	資産	50,028	44,909	45,749
	負債	14,949	9,997	11,011
	純資産	35,080	34,912	34,738
黒倉ふるさと振興株式会社	売上高	75,863	36,530	54,153
	営業利益	▲ 596	▲ 23,698	▲ 6,431
	当期損益	248	▲ 4,211	▲ 404
	資産	20,643	18,813	20,866
	負債	4,694	7,075	9,531
	純資産	15,949	11,737	11,334
株式会社 ゆめ企画名立	売上高	550,046	325,389	399,839
	営業利益	▲ 11,334	▲ 74,374	▲ 7,530
	当期損益	▲ 7,920	▲ 2,078	▲ 5,299
	資産	143,569	181,421	190,483
	負債	45,515	85,445	99,805
	純資産	98,054	95,977	90,677

(2) 三和振興株式会社の経営状況（令和3年5月末解散）

(単位：千円)

法人名	項目	令和元年度	令和2年度	令和3年度
三和振興株式会社	売上高	103,510	33,261	3
	営業利益	▲ 5,321	▲ 40,177	▲ 845
	当期損益	▲ 2,668	▲ 2,849	▲ 842
	資産	6,481	14,070	5,630
	負債	16,958	27,396	19,798
	純資産	▲ 10,477	▲ 13,326	▲ 14,168

※令和3年度は、解散事業年度（令和3年4月1日から5月31日まで）となります。

2 施設の主な利用状況

(単位：人)

法人名	施設名	項目	令和元年度	令和2年度	令和3年度
柿崎総合開発株式会社	柿崎マリンホテルハマナス	宿泊	5,198	2,602	3,261
		風呂	9,761	2,371	3,249
		宴会	5,116	610	473
		レストラン	4,009	3,029	4,203
		貸室	416	462	313
株式会社 大潟地域活性化センター	大潟健康スポーツプラザ 鶴の浜人魚館	風呂	63,093	34,273	42,892
		プール	18,575	5,605	10,069
		共通	4,352	1,142	1,728
		健康教室	1,930	574	1,370
		食堂等	31,530	14,541	16,933
株式会社 ゆったりの郷	吉川 ゆったりの郷	風呂	75,085	42,989	54,077
		レストラン	49,253	30,045	30,835
		ゲートボール	1,620	1,363	1,915
黒倉ふるさと振興株式会社	板倉保養センター やすらぎ荘	宿泊	1,487	665	865
		風呂	23,435	12,110	18,399
		食堂	13,471	7,251	8,690
		宴会	3,702	562	593
		貸室	938	474	565
株式会社 ゆめ企画名立	うみてらす名立	宿泊	10,685	6,776	7,586
		日帰り	201,283	96,729	110,196
		風呂	118,617	68,438	82,455
		レストラン	53,655	30,247	29,543

3 経営状況の概要

法人名	直近期の経営状況及び事業計画など
柿崎総合開発株式会社	<ul style="list-style-type: none"> ・ コロナ禍での宿泊・宴会客の減少等により、7期連続の赤字計上 ・ これまでの継続ではなく、新しい視点、あるべき視点で見直しを図る
株式会社 大潟地域活性化センター	<ul style="list-style-type: none"> ・ コロナ禍での休館や時短営業、宴会の減少等により、2期連続の赤字計上 ・ 地域の憩いの場、健康スポーツ施設としての魅力を最大限に活かす
株式会社 ゆったりの郷	<ul style="list-style-type: none"> ・ コロナ禍での入館者、レストラン客の減少等により、2期連続の赤字計上 ・ 「地域の福祉向上に寄与する」基本理念を忘れずに、施設を運営する
黒倉ふるさと振興株式会社	<ul style="list-style-type: none"> ・ コロナ禍での休業や、宴会・宿泊客の減少により、2期連続の赤字計上 ・ 憩いの場、交流の場としての施設であることの信念を重視するとともに、自然の素晴らしさをさらに広く発信し、観光も含めて若い人たちからも注目される施設を目指す
株式会社 ゆめ企画名立	<ul style="list-style-type: none"> ・ コロナ禍での休業やイベントの休止の影響が大きく、3期連続の赤字計上 ・ 希薄になっている家族並びに地域内のコミュニケーションを深めていただくとともに、顧客が「相思相愛」になれる環境を築き、食彩リゾートとしての魅力を高める

4 事業子会社の経営状況の分析・評価のフローチャートによる評価

法人名	フローチャートによる評価	特記事項
柿崎総合開発 株式会社	C	7期連続で単年度赤字を計上
株式会社 大潟地域活性化センター	A	
株式会社 ゆったりの郷	A	
黒倉ふるさと振興 株式会社	A	
株式会社 ゆめ企画名立	C	3期連続で単年度赤字を計上

5 令和3年度 第三セクター等評価委員会の分析・評価に対する対応状況（該当法人のみ）

(1) 柿崎総合開発 株式会社

令和3年度 第三セクター等評価委員会の分析・評価【概要】
<p>① 料理のクオリティ向上、イベントの企画や効果的な広告宣伝・集客に取り組むことにより、収益力を改善する必要がある。</p> <p>② 積極的な投資を回収できる仕組みを構築し、それぞれの投資に対する進捗管理をする必要がある。</p>
第三セクターによる対応状況
<p>① 海岸のガレキ撤去やごみの回収等による「海」の環境美化、FreeWi-Fiや空気清浄機の設置など館内環境の整備を行った。また、新たな試みとして同社オリジナルブランド「美味柿崎」を立ち上げ、柿崎産品を使った料理・土産品を開発し、利用客の増加に繋げた。</p> <p>② ベッドの入替、県民割等のキャンペーンもあり、客単価は向上している。客単価を維持しながら利用客を増やせるよう管理している。</p>
市担当部署による対応状況
<p>・ J-ホールディングスグループを整理し、整理後の効率化や経費削減に取り組んでいく。</p>

(2) 黒倉ふるさと振興 株式会社

令和3年度 第三セクター等評価委員会の分析・評価【概要】
<p>① 経営陣、従業員で独自の強みを見つめ直し、ターゲット層を検討した上で、効果的発信をしていく必要がある。</p> <p>② コロナ禍におけるメインターゲットは上越市民となるため、短期的な業績向上に向けては、市民が喜ぶプランの設計が必要である。</p>
第三セクターによる対応状況
<p>① 二つの温泉をセールスポイントとして運営し、山寺薬師、延命清水、地すべり資料館、人柱供養堂、ゑしんの里記念館など地域の宝を活用した中でインターネット予約による宿泊客を確保した。</p> <p>② 上越市のチャレンジ補助金を利用してグランピング設備を整えて新規事業を行った。コロナ禍で混み合うことを避けた家族連れや友人同士の利用に繋がった。</p>
市担当部署による対応状況
<p>・ J-ホールディングスグループを整理し、整理後の効率化や経費削減に取り組んでいく。</p>

事業報告

(令和3年4月1日から令和4年3月31日)

1, 当社の状況

本年度は当社にとって激動の一年となりました。

当社を取り巻く外部環境の変化は、当社だけではなく地域や日本・世界の産業にその対応力が求められました。

第一に、長引くコロナウィルス感染拡大は、この1年も感染の大きな波を繰り返しました。その都度発出される緊急事態宣言やまん延防止等重点措置への対応に迫られ、営業日営業時間の変更や営業内容の変更が続き、安定した営業を継続することが難しい一年となりました。しかし、今年の春以降は感染者数の高止まりが続く中、3回目の接種も進み様々な規制が緩和されて経済回復へシフトされてきております。

第二に、ロシアのウクライナ侵攻は経済に大きな影響をもたらしています。原油の高騰や輸入コストの増大があらゆる生産の原価高騰に繋がっております。グループ各社においても、温浴施設の燃料高騰や食材原価の高騰が経営に大きな影響をもたらしております。また、これらの状況はさらに悪くなることも予測され、上越市と対策を協議してまいります。

一方で、当社の内部環境も大きな転換を迎えました。これまでの2年間で、(株)キューピットバレイと三和振興(株)が経営困難となり、指定管理を辞退し事業を清算してまいりました。本年は、令和4年度からの指定管理者更新にあたり、「うみてらす名立」の指定管理者が公募となりました。当社の事業会社である(株)ゆめ企画名立も応募いたしました。選定委員会では株式会社BJが指定管理候補に選出されました。株式会社BJの提案は、株式会社ゆめ企画名立の株式譲渡の上で施設を運営するものであり、当社との協議、株式会社ゆめ企画名立の従業員への説明、市による地域や関連団体等への説明を経て3月市議会において、(株)BJと(株)ゆめ企画名立の共同事業体がうみてらす名立の指定管理者となることが議決されました。

2, 当社の活動実績

上越市は、新型コロナウイルス感染拡大が続く中、令和3年度公の施設の指定管理者への減収分への対応を見直しました。基本方針として、指定管理料による運営を基本とし、運営が困難な場合は施設の維持のため、利用実態や収支構造を踏まえ、施設機能やサービスの改善を図り指定管理料を見直すこととなり、9月と3月に関連事業会社の実態に応じ指定管理料の見直しが行われました。その結果売上は、前年度6,951千円、予算6,951千円に対し5,997千円の実績となりました。

また、各事業会社においては雇用調整助成金や上越市事業者経営支援金など、国・県・市の助成金や協力金を最大限活用し、収支の改善や感染対策備品購入などに繋げてまいりました。更に、お客様のご要望に配慮したうえで、経営効率最大化のために繁閑差に応じた営業日営業時間の見直しや、提供サービスの見直しを行ってまいりました。

今期は、人員削減に着手し社員1名体制からパート1名体制に変更し人件費削減に繋がりました。その他の費用についても最小限の支出に抑えることを徹底し、販管費は前年度11,763千円、本年予算10,755千円に対し本年実績9,182千円となりました。営業損益は前年度▲4,411千円、本年予算▲5,567千円に対し本年実績▲2,879千円となりました。

また、当社設立時に掲げた目標に対し新たな取組を進めてまいりました。総務部門の統合については、各社がそれぞれの力量に応じ税理士や社労士に委託していた、労務関連業務（給与計算含め）と経理業務の月次集計を令和4年4月からJHDで行うこととしました。更に、仕入れについては各社のアイテム別仕入実態を調査し、取引先の調整・仕入価格の見直し・共同購入による原価縮減などの取組に着手致しました。

一方で、各事業会社においては、コロナ禍で退職者の補充を行わず運営しており、客数の回復傾向に従い繁忙期間の要員不足がみられます。在籍者の過重労働にならないように、繁閑差に応じた大胆な要員体制と営業日営業時間の設定が課題となります。

また、三和振興(株)の清算費用として5,096千円、出資金消滅損として11.162千円の特別損失を計上致しました。

3, 事業会社(施設)の重点施策の取組

柿崎総合開発株式会社(マリンホテルハマナス)

総括

お客様ご満足の向上を目標に掲げ、現状打破に新たなトライを続けてまいりました。ホテルの環境整備では、当館の一番の売りである「海」の環境美化に取り組み、海岸のガレキ撤去とごみの回収を行いました。更に、館内環境は、FreeWiFiの導入・客室やレストランへの空気清浄機の設置など、快適に安心してお過ごしいただく対策を講じました。また、新たな試みとして自社オリジナルブランド「美味柿崎」を立ち上げ、柿崎産品を使ったお料理や、地場産品を柿崎で加工した土産物を開発し、ご利用に繋がりました。

① 宿泊

売上は令和元年度の86.9%まで戻ってきています。昨年から取り組んできた宿泊単価を上げる戦略は令和元年度比138.6%（12,827円）となり売り上げに貢献しています。

② 宴会

売上は令和元年度対比9.6%で、コロナ禍の中で最も回復が遅れています。生活様式の変化が宴会の減少に繋がっています。

③ レストラン

売上は令和元年度比127.9%となっています。四季彩会席や季節のパスタ・おすすめランチなど新企画が好調に支持されています。

④ 財務

上越市の指定管理料は25,349千円あり、他の協力金・助成金等の10,436千円と合計すると35,785千円となります。その結果当期純損失は▲14千円となりました。全体では

改善されたものの、赤字体質からの脱却には程遠い現状であります。

株式会社大潟地域活性化センター(鵜の浜人魚館)

本年度の売上はコロナ禍の中、感染対策の強化を図り時短営業等を行いほぼ通常営業を実施してきた結果、対前年比 22.1%増の 84,134 千円を計上、一方、経費では通常営業により、光熱水費、教室関連の講師料が大きく増加している。半面、従業員の退職による補充を見送り人件費の削減に繋げてきました。このような状況下で当年度純損失は 176 千円の計上となっている。

① コロナ禍での取組

入館者の推移を考慮しながら、経費節減対策として時短営業や施設の一部休止に取り組んできました。

② 活動等の制限

コロナ禍でイベントの開催や営業面の強化ができなかった。

③ 課題

施設の老朽化、地元地域との連携強化、従業員の世代交代と人材確保

株式会社ゆったりの郷(ゆったりの郷)

当施設は、道の駅「よしかわ杜氏の郷」内にあり立地や温泉の良さに加え、メニュー多彩なレストランを持ち、常に入館者には「親切・丁寧・お声がけ」をモットーに施設運営を行っています。特に、営業時間の短縮等による経費の削減や、「コロナ感染予防の徹底」「サービス向上」「食と健康」「安心安全」等に努力をいたしました。

① 施設全体

- ・館内のアルコール消毒や消毒液の配置などコロナ感染予防の徹底
- ・施設の冷暖房や電気の適正使用の徹底
- ・機械設備のメンテナンスの徹底と職員による施設修繕

② 温浴施設

- ・温泉のレジオネラ菌、大腸菌検査や防災訓練等の実施
- ・専門業者による清掃や設備等のメンテナンスの実施
- ・地元産の野菜や加工品の販売

③ レストラン施設

- ・新潟県新型コロナウイルス感染防止対策認定飲食店の認定取得
- ・コロナ感染蔓延防止措置の要請事項(1/21~3/6)の実施
- ・地産地消の推進やメニュー開発

黒倉ふるさと振興株式会社(やすらぎ荘)

① 新規事業

上越市のチャレンジ補助金を利用して、グランピング設備を整え新規事業を行いました。コロナ禍で込み合う事を避けた家族連れや友人同士の利用に繋がりました。

② 臨時休館

コロナ禍と冬期の降雪から経費削減策とし、土、日を除く平日（1/17～3/15）を休館としました。

③ 営業科目

入浴 6,289 人増（152%） 宿泊 200 人増（130%） 食堂 1,439 人増（119.8%） 宴会 31 人増（105.5%）と日帰り温浴や県民割を利用した宿泊は回復傾向にあります。

株式会社ゆめ企画名立(うみてらす名立)

総括

夏季シーズンの集客が少し戻った事や県や上越市の各種割引キャンペーンなどの利用により前年度よりは回復傾向で推移しました。個人の方の動きは戻りつつありますが、団体利用や宴会法要などの動きはまだ鈍く、従来の入込、賑わいには戻っていない状況。

① 温浴

近隣の方をターゲットの中心としました。荒天で利用できない日の多い 12 月中旬から 3 月中旬まで露天風呂を休止し、燃料費の削減に努めました。

② 鮮魚物販

団体旅行客の入込みが見込めず、地元地域へ売出しチラシの折込みを実施。

③ レストラン

一般団体の集客は少ないものの県内、近隣県の修学旅行の食事場所として集客。
宴会、法要の利用が少なく、短時間での宴会、法要の案内や持ち帰り型の提案などの取り組みを実施。

④ 宿泊

県や市の補助企画による集客。
まん延防止等重点措置解除後にファンクラブ会員へDMの発送。

4, 当社の損益状況

- (1) 第9期決算の売上は、予算比 954 千円減の 5,997 千円でした。
 (2) 販管費は、予算比 1,574 千円減の 9,182 千円でした。
 (3) 第9期経常損失は 2,534 千円、当期純損失は 19,082 千円となりました。

当社損益の状況(第9期)

(千円)

	第9期実績	同予算比	同前年度比
売上	5,997	△955	△954
売上総利益	5,997	△955	△954
販管費	9,182	△1,574	△2,581
営業利益	△3,185	2,391	1,238
経常利益	△2,534	2,885	△2,522

5.事業会社の損益状況

(千円)

会社名	総売上高	内指定管 理料	差引売上 高	国給付 金等	県給付 金等	市給付 金等	当期純利益
柿崎総合開発㈱	80,399	25,349	55,050	4,798	1,691	3,084	▲ 14
㈱大潟地域活性化センター	84,134	38,986	45,148	2,045	345	2,709	▲176
㈱ゆつたりの郷	95,824	14,430	81,394	1,277	200	5,906	▲ 173
黒倉ふるさと振興㈱	54,152	18,345	35,807	1,200	2,384	967	▲ 403
㈱ゆめ企画名立	399,839	86,877	312,962	0	2,341	2,624	▲5,299
合計	714,348	183,987	530,361	9,320	6,961	15,290	▲5,889

※※※※※※※※※※※※※※※※※※

決算報告書

※※※※※※※※※※※※※※※※※※

第 9 期

自 令和 3年 4月 1日

至 令和 4年 3月31日

J-ホールディングス株式会社

貸 借 対 照 表

令和 4年 3月 31日 現在

(単位：円)

J-ホールディングス株式会社

資 産 の 部

【 流 動 資 産 】

小	口	現	金		20,000
普	通	預	金		17,312,854
売		掛	金		527,858
未	収	入	金		350,171
流動資産合計					18,210,883

【 固 定 資 産 】

【 有 形 固 定 資 産 】

工	具	器	具	備	品	4
有形固定資産合計						4

【 投 資 そ の 他 資 産 】

出	資	金			231,017,603
投資その他資産合計					231,017,603
固定資産合計					231,017,607
資産合計					249,228,490

負 債 の 部

【 流 動 負 債 】

未	払	金			135,422	
預	り	金			39,775	
未	払	法	人	税	等	290,000
未	払	消	費	税	等	54,800
流動負債合計					519,997	
負債合計					519,997	

純 資 産 の 部

【 株 主 資 本 】

【 資 本 金 】

100,000,000

【 資 本 剰 余 金 】

資 本 準 備 金	50,000,000	
【その他資本剰余金】	257,187,224	
資 本 剰 余 金 合 計		307,187,224

【 利 益 剰 余 金 】

【その他利益剰余金】

繰越利益剰余金	△ 158,478,731	
その他利益剰余金合計	△ 158,478,731	
利 益 剰 余 金 合 計		△ 158,478,731
株 主 資 本 合 計		248,708,493
純 資 産 合 計		248,708,493
負 債 ・ 純 資 産 合 計		249,228,490

損 益 計 算 書

自 令和 3年 4月 1日
至 令和 4年 3月 31日

(単位：円)

J-ホールディングス株式会社

	【 売 上 高 】				5,996,680
	売 上 総 利 益				5,996,680
	【 販 売 費 及 び 一 般 管 理 費 】				9,182,139
	営 業 損 失				3,185,459
	【 営 業 外 収 益 】				
	受 取 利 息		166		
	雑 収 入		651,622		651,788
	経 常 損 失				2,533,671
	【 特 別 損 失 】				
	出 資 金 消 滅 損		11,162,218		
	そ の 他 の 特 別 損 失		5,096,672		16,258,890
	税 引 前 当 期 純 損 失				18,792,561
	法 人 税 等				290,018
	当 期 純 損 失				19,082,579

販売費及び一般管理費明細書

自 令和 3年 4月 1日
至 令和 4年 3月 31日

J-ホールディングス株式会社

(単位：円)

報	酬	給	与		5,241,658
臨	時	社	員	給	437,500
通	勤	手	当		41,875
法	定	福	利	費	807,893
福	利	厚	生	費	70,764
旅	費	交	通	費	141,420
通		信		費	131,812
販	売	促	進	費	168,960
広	告	宣	伝	費	637
接	待	交	際	費	7,000
会		議		費	200,365
租	税	公	課		66,034
管	理	諸	費		531,050
支	払	手	数	料	454,700
諸		会		費	12,500
賃		借		料	407,602
消	耗	品	費		118,552
減	価	償	却	費	305,919
雑				費	35,898
合				計	9,182,139

株 主 資 本 等 変 動 計 算 書

自 令和 3年 4月 1日
至 令和 4年 3月 31日

(単位：円)

J-ホールディングス株式会社

【 株 主 資 本 】

【 資 本 金 】 当期首残高及び当期末残高 100,000,000

【 資 本 剰 余 金 】

資 本 準 備 金 当期首残高及び当期末残高 50,000,000

【 そ の 他 資 本 剰 余 金 】

資 本 剰 余 金 当期首残高及び当期末残高 257,187,224

資 本 剰 余 金 合 計 当期首残高及び当期末残高 307,187,224

【 利 益 剰 余 金 】

【 そ の 他 利 益 剰 余 金 】

繰 越 利 益 剰 余 金 当期首残高 △ 139,396,152

当期変動額 当期純損失 △ 19,082,579

当期末残高 △ 158,478,731

利 益 剰 余 金 合 計 当期首残高 △ 139,396,152

当期変動額 △ 19,082,579

当期末残高 △ 158,478,731

株 主 資 本 合 計 当期首残高 267,791,072

当期変動額 △ 19,082,579

当期末残高 248,708,493

純 資 産 合 計 当期首残高 267,791,072

当期変動額 △ 19,082,579

当期末残高 248,708,493

個別注記表

自 令和3年4月1日 至 令和4年3月31日

1. この計算書類は、「中小企業の会計に関する基本要領」によって作成しています。

2. 重要な会計方針に係る事項に関する注記

(1) 資産の評価基準及び評価方法

有価証券は総平均法による原価法を採用しています。

(2) 固定資産の減価償却の方法

建物は法人税法の規定に基づく定額法、その他は定率法を採用しております。

(3) 引当金の計上基準

貸倒引当金 債権の貸倒による損失に備えるため、個々の債権の回収可能性を勘案して計上することとしています。

今期については、回収不能の恐れのある債権はありませんので、計上していません。

(4) リース取引の処理方法

リース物件の所有権が借主に移転すると認められるもの以外のファイナンス・リース取引については、リース期間を耐用年数、残存価額を0円とする定額法により処理しています。

(5) 消費税等の会計処理は、税抜方式によっています。

3. 貸借対照表に関する注記

(1) 期末所有の有形固定資産の減価償却累計額 3,854,846円

4. 損益計算書に関する注記

(1) 関係会社との取引高

営業収益 6,330,292円 営業費用 25,840円

5. 株主資本等変動計算書に関する注記

発行済株式の種類及び総数並びに自己株式の種類及び株式数に関する事項

	前期末	当期増加	当期減少	当期末	摘要
【発行済株式】					
普通株式	1,023,503	0	0	1,023,503	
合計	1,023,503	0	0	1,023,503	

6. 1株当たり情報に関する注記

(1) 1株当たり純資産額

243円28銭

(2) 1株当たり当期純利益

0円

7. その他の注記

監 査 報 告 書

私、監査役は令和3年4月1日から令和4年3月31日までの第9期における業務の執行を監査するため、会計帳簿及び重要な決算書類を閲覧し、計算書類について慎重な検討を加え、その他の必要と思われる監査手続きを実施した。

1. 貸借対照表及び損益計算書は、会社の財産及び損益の状況を正しく示しているものと認める。
2. 株主資本均等変動計算書の記載については指摘すべき事項はない。

令和 4年 5月 31日

J-ホールディングス株式会社

監査役 羽 深 真 一



第10期 事業計画および収支計画

1, 事業計画

上越市は令和4年度から令和6年度までの指定管理料の算定に関し、収入はコロナ感染など経済動向を考慮し利用客数を推計し積算すること。更に支出は過去3か年の平均値を基本とし、収入と連動する経費は利用客数に基づき積算する。また、指定管理者の管理運営努力に対し適正利益分を指定管理料基準額に加算するとの基本方針を示しました。また、予測不能なコロナ感染など不測の事態に対応し、毎年清算することとなります。このことにより、コロナ感染の拡大の影響を見通すとともに、直近の収支状況を反映した指定管理料の設定となりました。

当社においては、令和3年度に取り組んだ労務経理の業務集約を各社の成果に反映させることを目標に、さらに各社との連携を深化させ業務改善の成果をサービスの強化に繋げてまいります。

また、新型コロナウイルス感染はその状況をつかみ、国・県・市の方針に協力する姿勢を継続してまいります。さらに、各事業会社に協力金や補助金の情報を提供し、対応に漏れないようにいたします。

営業面は、宿泊では各種キャンペーンを利用した回復が期待されます。温浴は、ある程度の回復は見込めますが、これまで支えていただいた施設所在地近隣の高齢化と人口減少が急激に進んでおり、地域外からの集客が課題となります。ご宴会は、コロナ禍においてその在り方が大きく変化しました。継続されなくなった宴会も多く、各事業会社においてはこの減少分への具体的な対応が課題となります。需要喚起のために各事業会社との確かな情報共有を行い、集客の具体策に反映してまいります。また、サイクリングの取組を強化し、地域外からグループ施設への集客に繋がります。

一方で、原価高騰はさらに続くと予測され、各事業会社の経営の根幹を揺るがす事態となっています。上越市と協議を進め、具体的な対策を講じてまいります。

(1)各社の重点対策

柿崎総合開発株式会社(マリンホテルハマナス)

お客様のご利用単価は維持しながら、ご利用客数の回復への施策を講じていきます。

- ・宿泊、レストランのご利用数をそれぞれ年間600名増加させることを目標とする。
- ・ワーケーションプランの導入と、レストラン紹介サイトへの加入で集客を高める。
- ・経費縮減は、年間水曜日休館（繁忙期を除く）とレストランディナータイムの予約制を継続し、少人数でのオペレーション集中に繋げる。
- ・原価高騰には、節電節水などの自助努力の上、上越市と協議を重ね有効な対策を講じる。

株式会社大潟地域活性化センター(鵜の浜人魚館)

コロナの収束が見えない中、利用者については対前年比15%増を見込み積極的な取組みを行ってまいります。

- ・お客様の安心・安全を確保するため、日常点検等の強化を実施する。
- ・親切、丁寧なおもてなしの対応を徹底しお客様をお迎えする。
- ・ジムリーナとの連携を強化し、健康スポーツ面の強化を図っていく。
- ・これまで以上に地元地域との連携強化を図っていく。

- ・施設の老朽化対策として日々の点検強化を図る。

株式会社ゆったりの郷(ゆったりの郷)

施設の清掃や温泉の検査など快適・安心・安全に利用できるような力を注ぐとともに、最小限の人員で利用者へのサービスを維持できるよう知恵を出し合い、連携して取り組む。

- ・業務の見直しと社員のオールマイティ化
- ・館内清掃及び安全確保の徹底
- ・社員の見回りによる修繕箇所の早期発見
- ・仕入資材の適正な仕入と在庫チェックの強化

黒倉ふるさと振興株式会社(やすらぎ荘)

- ・地域の豊かな自然と、地元ならではの食材を中心とした料理を前面に打ち出した企画を実行します。
- ・頸南地域の温浴施設として、広い地域からの集客に努めます。
- ・経営効率を考慮し、メリハリある営業体制を進めます。

2, 収支計画

令和4年度も社内確認の通り、JHD 支出計画のうち 50%を各事業会社の負担といたします。但し、労務経理業務集約に関する管理費用は JHD の負担とし、各事業会社の負担軽減に繋がります。そのため、支出は最小限に抑える計画を立て、営業損益の赤字を最小限に抑える努力をいたします。

	収入	販管費	営業損益
第8期実績	6.951	11.375	▲4.423
第9期予算	5.188	10.755	▲5.567
第9期実績	5.996	8.876	▲2.879
第10期予算	2,040	4,599	▲2,559
販管費内訳	人件費 2,851 千円、 その他 1,066 千円	管理ソフト 504 千円、 消耗品 120 千円	